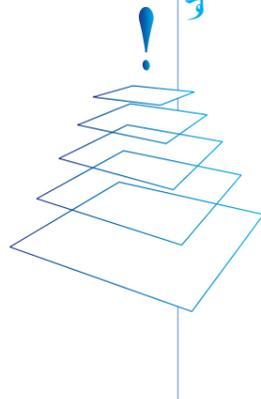


推薦します



持田侑宏

「女子学院理事長」

東日本大震災直後に原島先生を友人とともに訪ねた時、先生が高校生や若者が広い視野で学んで困難を乗り越えてほしいと願われて原島塾の準備を開始されたことを知った。参加してみると実にわかりやすく、宇宙の始まりから、芸術文化、歴史、さらには情報分野の最新まで、先生が本質を調べ納得されたことをベースに解説しておられ、若者から高齢者までがひきつけられて聞き入っていた。今回その講義録が刊行されることを喜んでおり、ぜひ老若男女のすべての年齢層の方に読んでいただきたいと思っている。特に中高校生の教育にも関わっている立場として、次の世代を担う若い年齢層の人たちに、これから学びを始める前にもまずは分野を俯瞰するための優れた入門書としてぜひお勧めしたいと考えている。

宮下芳明

「イグノーベル賞受賞 明治大学教授」

原島先生の『俯瞰する知』はいわば、冒険への招待状です。知の大海を渡り、既知の枠を超えて新しい理解を得る旅の地図です。これまで踏み入れたことのない地点から多様な知の領域を眺めると、まず爽快感を味わうでしょう。そして異なる分野の知識の交わりからさらなる洞察が生まれ、読者の視界と好奇心を拡げてくれます。原島先生が描き出した広大な知の風景には驚嘆しますが、同時に、私たちにも自らの俯瞰的な探求を始める勇気を与えてくれます。

ドミニク・チェン

「情報学研究者 早稲田大学教授」

「俯瞰する知」という壮大なタイトルとシリーズ構成を見て、これは原島先生からの宿題、というか挑戦状だな、と感じる。情報通信としてのコミュニケーション研究で活躍された後に、「顔学」のような社会的な次元におけるコミュニケーションの探求に乗り出された先生から、「それで、情報とは？」「コミュニケーションとは？」という問いを突きつけられている。読者には、次に先生にお会いする時までに、自分なりの考えと問いを用意しておくことをお勧めする。どんな問いもオープンに受け容れてくれる原島先生と、難題について一緒に考える時がいまからとても楽しみである。

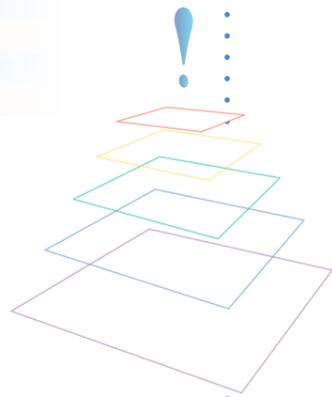


最新情報はこちら

俯瞰する知

原島博講義録シリーズ **全10巻**

- 活版印刷術
- 情報革命
- シャノンの情報理論
- インフレーション宇宙論
- East Side Story
- 自己家畜化
- Post Human
- 自己否定
- 真理探究
- 社会統治
- Meme
- ワークライフバランス
- 死の分類
- 科学のモード論
- オープンスパイラルモデル
- トランスサイエンス
- ヨーロッパ中心主義
- 新たな資本主義
- イスラエル／パレスチナ
- 失われた〇〇年
- 地域コミュニティ
- 家族進化論
- 文化と文明
- 権力者の文化
- 引き算の思想
- 顔学
- 感性コミュニケーション
- 匿名
- 探求知と創造知
- Holism
- etc...



すぐには役に立たないかもしれない
そんな「**知の世界**」があります

原島塾 [2011-2023] の講師は原島ひとり

ジャンルを超えて俯瞰してきた講義がここに結集
これは学校で学ぶ前に、社会で学んだ後に
あなた自身の知を旅するための道しるべ
そこで知らない自分にきっと出会えるはず

2024年4月 配本開始

- A5判変型、各250～300ページ
- 各巻予価＝2,600円〔税別〕
- 工作舎刊



原島博

「はらしま・ひろし」 東京大学名誉教授

2009年3月、東京大学を定年退職。2011年6月から原島塾を毎月開催。2024年2月に150回を迎える。ヒューマンコミュニケーション工学、「人間と人間の間のコミュニケーション」の構築と体系化にトする「ことを専門として、この立場から1995年には「日本顔学会」を設立、「顔学」の構築と体系化に尽力した。理系と文系さらには科学と文化、芸術を融合した新しい学問体系の構築に関心をもち、文化庁メディア芸術審査委員長・アート部門審査員、グッドデザイン賞(Gマーク)審査員をつとめた。



工作舎

〒169-0072
東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル 12F
tel 03-5155-8940・fax 03-5155-8941
saturn@kousakusha.co.jp

申込書

*お近くの書店にお申し込みください。工作舎へ直接お申し込みもできます。

書店印	全巻 [巻1～10]	<input type="checkbox"/>	ご住所
		セット	
	巻1 「情報の時代を見わたす」	<input type="checkbox"/>	お名前
		冊	
	巻2 「宇宙138億年から学ぶ」	<input type="checkbox"/>	お電話番号
		冊	
	巻 <input type="checkbox"/> のみ	<input type="checkbox"/>	e-mail
		冊	

〒169-0072
東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル 12F

tel 03-5155-8940・fax 03-5155-8941
www.kousakusha.co.jp
saturn@kousakusha.co.jp



工作舎

主な編著書に、「情報と符号の理論」共著 岩波講座情報科学 4 (1983)、「人の顔を変えたのは何か」共著 Kawade 夢新書 1996、「顔学への招待」(岩波科学ライブラリー 1998)、「感性情報学」監修 工作舎 2004、「顔の百科事典」編集委員長 丸善出版 2015、「信号解析教科書」(コロナ社 2018)、「信号処理教科書」(コロナ社 2018)、「ビジュアル顔の大研究」(監修 丸善出版 2020)など。

俯瞰する知

原島博講義録シリーズ【全10巻】

原島博は、個人講演会である原島塾を開催し、恋愛論から宇宙論まで多様なテーマを取り上げてきました。その基礎にあるのは、細分化された専門知に対して、世界全体を見わたす「俯瞰知」。

本書は、専門家ではない視点で、新たな学びのありかたを試みてきた原島塾講演150回の集大成です。

巻1 ▼ 情報の時代を見わたす

- 第1講 情報の時代はいかにして到来したのか
 - 第2講 コンピュータの過去・現在・未来を10年単位で俯瞰する
 - 第3講 コミュニケーション技術の進化を100年単位で俯瞰する
 - 第4講 情報文明を1000年単位で歴史に位置づける
 - 第5講 情報社会は本当に人を幸せにするのか
 - 第6講 情報技術の発展と人類の未来を展望する
- 補講 そもそも情報とは何なのか——改めて考える

巻2 ▼ 宇宙138億年から学ぶ

- 第1講 まずは宇宙誕生からの138億年の通史
- 第2講 宇宙は無からどのようにして誕生したのか
- 第3講 地球環境のもとでの生物の進化を追う
- 第4講 直立歩行からの人類の歩みを振り返る
- 第5講 農耕開始以来の文明の歴史を復習する
- 第6講 近代からその先へ——成長と拡大の時代は終わった
- 第7講 人類の未来——滅亡は避けられるのか

巻5 ▼ 科学技術のいまを問う

- 第1講 知と技の歴史を振り返る——まずは19世紀までの歴史
 - 第2講 知と技の歴史を振り返る——それは20世紀に変容した
 - 第3講 科学の知を再考する——それは人のいかなる知の営みなのか
 - 第4講 工学の知を再考する——創造の知としての新たな展開
 - 第5講 人は自らをどこまで改造して良いのか
 - 第6講 人は科学技術とどうつきあつたらよいのか
 - 第7講 研究という営みを解剖する——研究者であること、人間であること
- 補講 社会とともにある科学技術を推進するオープンスパイラルモデル

巻6 ▼ 歴史から現代を視る

- 第1講 アメリカの盛衰——いま何が起きているのか
 - 第2講 分断の時代に民主主義とは何かを考える
 - 第3講 覇権の世界史——盛者必衰の帝国の歴史を探る
 - 第4講 歴史はくり返すのか——長19世紀と長20世紀
 - 第5講 近代という時代の終わりに——これからの21世紀を考える
- 補講1 ほとんど知らない中東とイスラームの世界を覗く
- 補講2 ほとんど知らなかったロシアの国と歴史

巻7 ▼ 改めて見つめる日本

- 第1講 戦後日本を振り返り、現代の課題を探る
- 第2講 崩壊しつつある家族という難題を考える

巻3 ▼ 哲学と宗教をいま度

- 第1講 人は知をいかに営んできたのか
- 第2講 西洋哲学をソクラテスからサンデルまで垣間見る
- 第3講 中国の諸子百家の思想はどう展開されてきたのか
- 第4講 無の思想を中心にインド哲学と仏教の世界を垣間見る
- 第5講 人はなぜ宗教を信ずるのか その営みを垣間見る
- 第6講 日本思想の系譜 それはいかに展開されてきたのか

- 第1講 そもそも人はどのような人生を送っているのか
- 第2講 人の子はいかにして大人になるのか
- 第3講 恋する男と女の不思議な関係
- 第4講 社会にあつて生きる。個人として生きる
- 第5講 人はどう生きているのか。何を生きがいとしているのか
- 第6講 人はなぜ老いるのか。老いてから何をやるのか
- 第7講 人はなぜ死ぬのか。病いどう付き合えばよいのか
- 第8講 人はなぜ死ぬのか。死とどう向き合えばよいのか

巻4 ▼ 生老病死と向き合う

- 第3講 これからのコミュニティのありかたを考える
- 第4講 これからの日本と未来社会のデザイン
- 第5講 文化をキーワードに日本の歴史を紐解く
- 第6講 近代の日本の歴史と文化
- 第7講 起承転結の歴史を日本の未来へつなぐ

巻8 ▼ 西の文化・東の文化

- 第1講 西洋の美術を覗く——顔を中心に西洋美術史を概観する
- 第2講 日本の美術を覗く——みやび、かび、わび、あそびの文化
- 第3講 西洋の音楽を覗く——顔からクラシック音楽史を探る
- 第4講 日本の音楽を覗く——身近なはずの邦楽の世界を紐解く
- 第5講 西と東の歴史と文化——何が似ていて何が違うのか
- 第6講 東の日本の文化を改めて考える
- 第7講 文化とは何なのだろうか——ささやかな私論

巻9 ▼ ヒトの顔・人の顔

- 第1講 顔とは何か——なぜヒトに顔があるのか
- 第2講 顔学は百学連環——俯瞰知としての展開

巻10 ▼ 俯瞰知への道補遺

- 第1講 改めて知を再考する1——デカルトの知をどうのりこえるか
 - 第2講 改めて知を再考する2——創造の知へ向けて
 - 第3講 俯瞰知の試み——なぜ俯瞰が大切なのか
 - 第4講 原島個人にとつての俯瞰、そして原島塾
- 補遺1 私家版「知の技法」——いかに発想して発信するか
- 補遺2 大震災から十余年、個人的に思うこと
- 補遺3 コロナの時代に考えたこと、学んだこと
- 補遺4 超ミクロ探検の歴史——標準模型へと至る素粒子物理



●紙面サイズ／文字数
左右132mm×天地210mm
40字×16行／ページ

●本文文字サイズ／書体
14Q＋行間歯送025H
【漢字】
A-OTF リュウミン Pr6N R-KL
【かな】
A-OTF リュウミン Std R-KO
【欧文・数字】
Arno Pro Light Display

